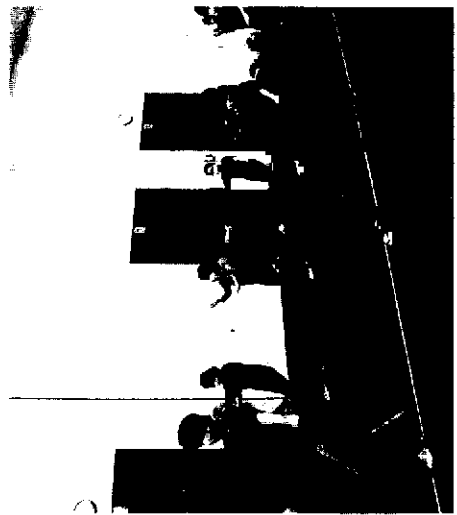


第23号発行  
2021・1・21  
発行責任者  
赤川イシ子



今年こそ……  
会長 赤川イシ子

オリンピックの感動とその余韻に暮れたであろう2020年。しかしコロナウイルスなる疫病神の到来で、全世界が奈落の底に突き落とされ、新年を迎えても終息の兆しはなく、人は皆、不安と恐怖の日々の中。されど敢えて新年おめでとうございませと申し上げます。平凡ということが、どれだけ辛せつたのかを痛感しております。あらゆる行事が中止になり、行動も制限され、パンデミック、クラスター、密集なる言葉



が毎日ニュースの中に流れている昨今、夢のない日々で2020年が暮れました。目に見えないウイルスなる凶器におびえる毎日が、この先どこまで続くのでしょうか。

今は只、個人衛生を守り、うつらない、うつさないを念頭に置いて……、これ以外に何があるのでしょうか。いつか「終息」というテープを切る日が来ることを信じましょう。糸の切れた爪にならないよう。辛い私達保存会には70周年という集大成行事があります。この大きな目標に向かって、やれない、できないを、やれた、できたと言えるよう、自分みがきに精を出しましょう。会員、人、人の繋がりを大切に。2021年が、明るく活気ある一年でありますように。

1年をふりかえり

●飯塚 和代

1月26日 新年会 シャンカトラ  
2月15日 病院OB会。これが最後の音出し出演となり、きおん他、イベント中止。集まりもなく少し淋しい日々ではあったが、柏崎の民謡



は、日常よりしみついた曲は常に体からつかず離れず、四季折々に想い出され、練習もままならない時も、少人数での音出しにも参加し、1年が経って行く。日は好日なり。ありがとうございました。

●内山久美子

踊りを始めて、もうすぐ五年になりますが、今の自分にできる精一杯の力で皆様に楽しんでもらえるように、これからもお稽古頑張ります。

●江口かづ子

創立70周年という佳節に、踊り子として参加できる事、とても楽しみなのと同時に、大変緊張しています。当日まで猛練習を重ね、精一杯の踊りを踊れたら、と思っております。



●森山 文子

幼い頃、盆踊りの輪をみているのが好きな子供でした。近年、地域の伝統行事が廃れていくなかで、少しでも保存する活動に関わりを持てると思うのが嬉しくて、人会させてい

70周年に向けて

●村山 啓子

「好きこそ物の上手なれ」と言うが、好きで始めた民謡も上手になるのは難しい。泣いたり、笑ったりした練習の日々。その達成した喜びを共に感じたいです。

の時に入会しました。色々な楽しい事が沢山思い出されますが、この年齢まで踊っていられて本当に幸せに思います。

柏崎の山や海、柏崎おけさの音色、三階節の太鼓の音。これからも未長く保存会が続きますように。



いただきました。未だにお囃子も上手くできませんが、宜しく願いたします。

●豊 昌美

選脣の声も聞こえ始めたころ、無性に弾いてみたくなった津軽三味線！

この衝動を抑えることが出来ず、ついにその禁断の扉を開けてしまいました。

どこまで行けるかは未知数(?)ですが、少しでも保存会のお役に立てるよう稽古に励みますので、皆様どうぞ温かく見守って下さいませようお願いいたします。

●矢代 絹代

創立以来、先人達からのバトンを受け継ぎ、七十周年を迎えられることを嬉しく思います。記念公演では、保存会を支え、応援してくださった方々に、感謝を込め舞台に立ちたいと思っております。

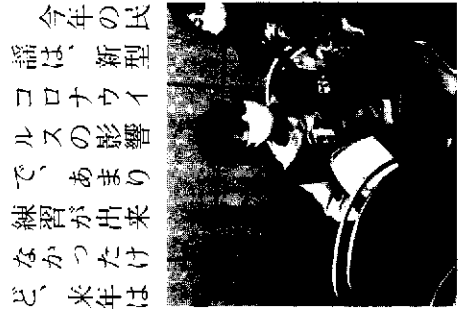


●小林 優太

私は今、三味線をはじめてやっています。今は新型コロナウイルス感染症防止のため、練習が出来ていません。なので家で自主練習をして、上手になろうとしています。今度、コロナウイルスが終息して、発表会などがあるときその成果をぞんぶんに発揮したいです。

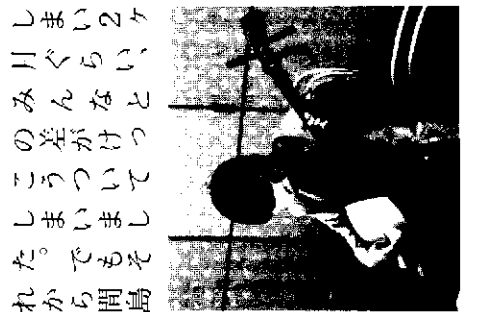
●永井 寛生

三味線をはじめてやったときは、左手を動かすことも難しかったです。そして、1週間後に骨折をして



●飯田 奏音

今年の民謡は、新型コロナウイルスの影響で、あまり練習が出来なかつたけど、来年はまたみんなで三味線や、太鼓の練習をしていきたいです。



しまい2ヶ月ぐらい、みんなとの差がけっこうついてしまいました。でもそれから間島さんと、すこし延長して練習して皆さんと同じぐらいになつて、弾けるようになりました。次の70周年記念では、上手に弾けるようになりたいです。

**編集後記**

新型コロナウイルスが昨年春頃から日本にも入り、コロナ禍の1年が始まりました。新たな生活様式と言われた2020年でもありました。当会の行事もやむなく中止となりましたが、米年には創立70周年を迎えます。コロナが終息し、皆様が健康でありますように願っております。「和と輪」の本号にも全会員の皆様から原稿をお寄せ頂き有難うございました。

(広報担当 堀)